

緑のセンターだより

NO.117 平成20年12月1日発行

発行元: (財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

アカエゾマツ

Picea glehnii マツ科 トウヒ属

トウヒ属はアジア、ヨーロッパ、北アメリカなど北半球に多く約40種あり、特にアジアに最も多く分布しています。日本には8種あり、北海道にはエゾマツとアカエゾマツの2種が自生しています。アカエゾマツはアジア東部、シベリアから中国北東部、朝鮮半島、サハリン、千島列島等にごく部分的に産し、分布の中心は北海道で、特に東部、北部(テシオマツの名があるほど)に最も多く分布生育しています。地質学で言う黒松内低地帯の少し南が南限と言われていましたが、1961年に岩手県の早池峰山に小群落が隔離分布していることがわかりました。

トドマツやエゾマツと混交しますが、蛇紋岩地帯や湿原、酸性の強い火山砂礫地帯、岩礫地、山火事跡地、砂丘など他の樹種が育たないところにもアカエゾマツの純林が見られます。北海道に自生する常緑針葉樹のなかで最も大きくなる樹木の一つで、高さ40m、胸高直径1.5m以上にもなる長寿の樹木で、434年を数えるアカエゾマツの円盤が札幌市羊ヶ丘の森林総研の標本館に展示されています。また、最も大きいと見られる円盤は1985年に朱鞠内湖の湖底で見つかった直径2mを超える巨大な伐根円盤でありましょうか(北大雨龍研究林所蔵)。

エゾマツにくらべ樹皮が赤味がかっていることからこの名があり、これに対し、樹皮が黒いわけではありませんがエゾマツをクロエゾマツと呼ぶこともあります。また、アカエゾマツにはエゾアカマツ、テシオマツ、ヤチエゾ、ヤチシンコなどの呼び名もあります。枝ぶりはエゾマツ

に似て垂れ下がり、遠目では判別しにくいですが、葉は判然と異なり、エゾマツは扁平で先が鋭くとがるのに対しアカエゾマツの葉の横断面は四菱形で短い針葉が密についています。整った円錐形の自然樹形は壮大で美しく、エゾマツとともに「北海道の木」に選定されています。

湿原に生えるアカエゾマツはヤチシンコと呼ばれ、生長がきわめて遅く矮生化し、自然の盆栽風の景観を示し、見る人の心をなごませます。そのまま盆栽になるので昔から盗掘が絶えず、湿原には盗掘跡の小さな窪地がよく見かけられます。盆栽界でエゾマツと呼ばれるものの大半はアカエゾマツであり、直径が数センチでも樹齢数百年を数えるものも珍しくありません。

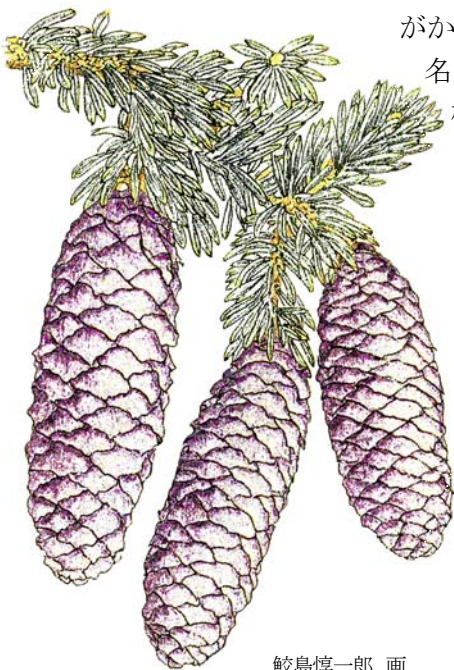
用途は広く一般建築材のほか、良質なものは楽器材として評価が高く、特にピアノやバイオリンの響板として最も良い樹種とされ、丸瀬布には楽器メーカー専属の製材工場もあり、日勝峠には「ピアノの森」としてアカエゾマツの純林が保護育成されています。また、生長が遅く強い剪定にも耐えることから庭木や盆栽にも用いられています。自然樹形が美しいのでコニファーとして洋風の庭にも適し、クリスマスツリーとしても多く利用されます。ツリーといえば「モミの木」と思われがちですが、世界的にはトウヒが多く用いられています。それはモミの木の分布はトウヒに比べればはるかに少ないためでしょう。北海道にはモミは自生せず、モミ属のトドマツがありますがトウヒ属のアカエゾマツがより多く用いられ、特に鉢植えのツリーはほとんどアカエゾマツです。

人々と あかえぞ松の苗うえて

みどりの森になれといのりつ 裕仁

第12回全国植樹祭(支笏湖畔モーラップ山麓)にて(1961.6)

生育が遅いとは言え第12回植樹祭で昭和天皇が植えられたアカエゾマツは、間伐され昨年の58回植樹祭で会場の建物や椅子などに利用されたことを、天皇は大変喜んでおられました。(M.S.)



鮫島惇一郎 画

12月の園芸

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。
ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、
ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00～12:00、13:00～16:00
 ☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日
 ☆百合が原公園 冬期は受け付けておりません
 ☆平岡樹芸センター 冬期は受け付けておりません

◆シクラメン これからの管理

購入のポイント

店頭で鉢を選ぶとき、どうしても見た目やボリューム感に惹かれがちですが、株の状態、葉の艶、まとも、開花状態などしっかりチェックしましょう。

- 葉はやや小ぶりで大きさ、形が揃っている。
 - 手のひらで葉の表面を触れると弾力がある。
 - 葉に虫の食痕や黄変がない。
 - 株元に病痕等が無く、深植えになっていない。
 - 開花数が多く揃っていて蕾も多く見られる。
 - 花卉にシミや傷みが無く、張りがある。
- などの条件を目処に選ぶとよいでしょう。

☆詳細は「緑のセンターだより」80号(平成17年11月)を参照。

購入後の管理

温度と光線 シクラメンの生育温度は日中 20℃、夜間 12～15℃です。開花中は低温で管理すると長持ちします。25℃以上の室温では、花持ちが悪くなるばかりでなく生育も悪くなります。

光線 太陽光が不足すると生育不良になるばかりでなく、開花が抑制され発蕾も悪くなります。日当たりの窓辺に置き、日中少なくとも1～2時間以上は日光に当てるようにしましょう。

水やり 水やりは乾燥状態を確認することが大切です。鉢表面の土が乾くのも目安となりますが、鉢内部の乾燥を確かめるのも大切です。菜箸を立て、時折抜き取って水分の状態をみたり、鉢を手で持ち上げた重さで判断するのも良いでしょう。灌水は受け皿にあふれるまで与え、余った水は捨てて、常に受け皿はカラとした状態にしておいて、次に乾くまで与えないようにします。

葉水 葉水普段必要ありませんが、室温が高く、根からの吸水が間に合わないような場合、霧吹きなどで補う場合もあります。底面給水鉢の場合、給水皿の水が無くなる前に補給しますが、月1回は鉢上から灌水して鉢内のガス交換(炭酸ガスを排除し新鮮な酸素を補給)をします。

肥料 肥料は開花中も与えます。ただし極力薄く希釈した液肥が良いでしょう(1500～2000倍程度)。底面吸水鉢には給水皿に薄く液肥を入れておけば良いですが、受け皿に水を加える度に肥料を入れると濃度が高くなってしまいます。液肥は月に1度くらい加える程度で良いでしょう。

株の手入れ 咲き終わった花や傷んだり変色した葉はこまめに抜き取り(茎元から軽くひねって引き抜く)、日中の葉柄が柔らかくなる時に葉組をしましょう。

病虫害 シクラメンホコリダニやキンケクチブトゾウムシなどの害虫、灰色カビ病、軟腐病などシクラメンに発生する病虫害は少なくありません。害虫による被害が見えたら直ちに殺虫剤処理をしましょう。病害は発生してからでは間に合いません。兆候があれば殺菌剤で予防しましょう。日当たり良くし余計な湿気を避けることでも病害は抑えることができます。



◆ポインセチアの購入のポイントとその後の管理

購入のポイント

- 新鮮で勢いがあり、葉が濃緑で茎や枝が太くガッシリしている鉢を選びます。
- 葉が垂れ下がっていたり、株がぐらついているものは避けます。
- 葉や苞が傷んでいないもの、病虫害に冒されていないものを選びます。
- 寒さに弱い植物ですので、店舗の屋外などに置かれていたものは避けます。
- 枝が折れやすいので、包む時や取り出しの際は十分に注意します。

購入後の管理

置き場所 日光を好みますので、ガラス越しの日光が十分に当たる窓辺に置きます。時々向きを変え、株全体に光が当たるようにします。生育適温は日中 18～28℃、夜間 15～17℃です。15℃以下では生育が鈍り、8℃以下では生育はほぼ停止します。暖房機などの風が直接当たらないところに置きます。

水やり 鉢土が乾いたら(葉と苞が垂れ始める)鉢底から流れ出るぐらいたっぷり与え、受け皿の水は捨てます。根腐れ病が発生しやすいので、過剰な水やりには注意します。やや乾き気味に管理するのが長持ちさせるコツですが、極端に乾かすと根の先端が傷み、落葉することがあります。冬の室内は乾燥するので、夜は霧吹きをしてプラスチックフィルムや新聞紙を上にかけてやるだけでも保湿の効果がああります。

肥料 花期が長いので薄い液肥を月 2 回ほど与えます。オンシツコナジラミが好んでつきますので、アドマイヤー粒剤、アクテリック乳剤、ブルースカイスプレー剤などで駆除します。

植え替えと剪定 適期は 4～5 月です。

年間栽培暦	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
生育状況	開花期			生育伸長期						花芽分化期	開花期		
主な作業				植え替え、剪定		挿し木			短日処理				
肥料	薄い液肥 月2回			7～10日に一度						薄い液肥 月2回			
置き場所	室内の窓辺					戸外			室内の窓辺				

◆松竹梅寄せ植え盆栽をつくろう!

松竹梅に用いる植物

松 クロマツまたはゴヨウマツ(梅に対してやや小ぶりのものを使う)

竹 コグマザサ、シマザサ(松や梅の添え物として使う)

梅 大型盆栽は寒紅梅、冬至梅の紅白を用い、小型の場合は紅梅のみ

その他 ナンテン、フクジュソウ、リュウノヒゲ、ヤブコウジなどを主木と合わせて奇数になるように添える

その他の資材

鉢 長方形または楕円形の青塗りのナマコ(生子)鉢、あるいは茶色で照りのない烏泥鉢

大型松竹梅は 13 号、小型は 8 号くらいの大きさが適当

用土 赤玉土(小粒)、ゴロ土

装飾材 岩石、寒水石

その他 鉢底ネット、針金

寄せ植えの手順

鉢底穴をネットでふさぎ、ゴロ土を敷いて、松竹梅を配置(不等辺三角形になるように)して構図を考える。竹や主木の正面も見てバランスよく並べる。

配置が決まったら梅と松を針金で固定する。

用土を入れながら添え草を主木の前後左右に添えるように植えつける。

軽く灌水してから苔を張り、苔の隙間や周囲に寒水石を敷いた後、十分に灌水し、若干手直しをして再度灌水して完了。

植え付け時期とその後の管理

ウメやフクジュソウが元旦に咲くように 12 月中旬に植え、蕾の膨らみを観察しながら置き場所を移動(温度や湿度を調節)して開花調節しましょう。



12月～1月上旬の催しのお知らせ

豊平公園緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
正月用ミニ盆栽を作ろう	12/13（土）	13:30	11/11～	2,500 円
シンビジウムの育て方	1/25（日）	〃	1/11～	無料
展示会				
リース展	12/2（火）～25（木）		豊平公園花とハーブの会	
クラフト講習会				
自然素材でリースを作ろう	12/6（土）	10:00 13:30	11/11～	1,500 円
アレンジ押花講習会「カレンダー」	12/19（金）	10:00	12/11～	1,500 円

百合が原緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

展示会	日	料金
クリスマスディスプレイ	11/26（水）～12/14（日）	130円
市民ラン展	1/20（火）～25（日）	〃

花とハーブの会からのお知らせ

花とハーブの会は、豊平公園で活動するボランティアグループです。
ハーブ花壇の管理や、「ハーブ展」、「リース展」などのイベントでも活躍しています。
12月はお楽しみのリース展を開催します。
現在(11月下旬)、豊平公園内で収穫された木の実やドライフラワーなどを使って、
クリスマスやお正月を彩るリースを製作中です。
寒い冬が始まりましたが、暖かい温室で一息つきにお越しください。

平岡樹芸センターからのお知らせ

平岡樹芸センターは11月6日をもって本年の営業を終了いたしました。
本年もたくさんのご来園ありがとうございました。
来シーズンは4月下旬から開園する予定です。またのお越しをお待ちしております。

冬期間の植物に関するご相談は、豊平公園緑のセンターの緑の相談窓口で受付しております。

豊平公園 緑のセンター 公式ウェブサイト <http://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

※「緑のセンターだより」バックナンバー公開中※